

鎌ヶ谷市

郷土資料館

だより 第61号

目次

- 澁谷家文書を寄贈いただきました ..
..... 1～2
- 郷土資料館この一品⑱ 2
- 史料整理の現場から⑩ 3～4
- 資料館セミナーを開催 4

澁谷家文書を寄贈いただきました

江戸時代の資料など約2万4千点

都市化が進む市内ですが、それでもまだ多くの歴史資料(史料)が残されています。その史料群の一つとして知られていた佐津間地区の澁谷家文書約2万4千点を、本年7月市教育委員会へ寄贈・寄託いただきました。この号では、これらの資料の概要についてお知らせします。

彩色家相図など貴重なもの多数

澁谷家文書は、昭和59年(1984)に市史編さん事業の一環として調査・整理が始まり、現在も継続しています。その過程で、江戸時代の古文書や明治・大正・昭和期の近・現代史料、写真などの貴重な資料が多数確認されています。それらの一部は、すでに『鎌ヶ谷市史』の記述や資料館の展示の中で広く利用されていました。

史料自体はこれまでご当家で長く大切に保存されていましたが、このたび、同家母屋などが「澁谷家住宅」として国登録有形文化財に登録されたことと併せて、さらに広く市の歴史的な財産として保存・活用してほしいという所蔵者のお考えにより、郷土資料館でお受けすることとなりました。正確には市指定文化財の「澁谷総司書簡」1点が寄託、他の24,454点が寄贈となります。

さて、受納した史料のうち、江戸時代に作成されたものは約500点あります。それらの多



澁谷家家相図(嘉永元年(1848))

くは、澁谷家が佐津間村の名主をつとめていた江戸時代半ばから後半にかけての時期に作成され、保管されてきたものです。この時代に佐津間村を支配していた譜代大名本多氏の支配の様子、村の様子や運営、隣接する小金中野牧の状況や將軍の鹿狩など市域全体の近世史を知る上で大変貴重な内容です。また、国登録有形文化財である澁谷家の母屋などを描いた幕末期の彩色家相図は大変貴重なものです。

幕末草莽の志士で赤報隊員の澁谷総司は当家の出ですが、寄託史料は彼が故郷の兄に宛てて記した慶応2年(1866)の書簡として有名です。一連の調査の中で、彼が少年期に読書した刊本

(2ページへ続く)

(1 ページからの続き)

や青年期の総司自筆と推定できる写本なども見つかりました。

点数的には残りの大多数が近・現代史料となります。主なものとして、明治～昭和にかけて総司の慰霊・復権と贈位をめざした遺族の活動の史料、同時期に墓地の誘致や市場の設置、耕



江戸時代の古文書

屋根裏に保存されていた御札の1枚

地整理などを通じて、佐津間など市域北部の地域開発がはかられた際の史料がまとまって残されています。そのほか、当該期の澁谷家の当主が様々な人たちへ送った書簡類を複写した控えが膨大にあります。また、明治～昭和の古写真も確認できました。

さらには、民俗史料となりますが、母屋の屋根裏に保存されていた御札や御守が326種・509点確認されており、これも今回寄贈いただきました。ほとんどすべてが江戸時代のものと推定でき、この地域の信仰を知る上で重要なものとなります。

このように、澁谷家文書は、鎌ヶ谷市域の歴史と民俗を私たちに示してくれる「地域の宝もの」といえます。寄贈・寄託いただいた史料については、資料館の今後の企画展などで順次展示し、あるいは刊行物やホームページなどで内容について紹介していく予定です。

郷土資料館この一品⑱

豊作稲荷神社養蚕絵馬

今回は、展示室中ほどの初富開墾コーナーに展示している大型の絵馬を紹介しします。

この絵馬は、初富地区の開墾会社員であった湯浅七左衛門が明治6年(1873)に勧請した豊作稲荷神社に奉納されたもので、手水鉢、鈴、「豊作社」額とともに鎌ヶ谷市指定文化財となっています。大きさは横159センチメートル、縦113センチメートルあります。

図柄は2階建ての大きな建物で養蚕を行っている様子が色鮮やかに描かれています。鎌ヶ谷市域ではもともと養蚕は行われていなかったようですが、明治時代の一時期に試みられていたことが、この絵馬からわかります。また、初富では明治7年(1874)に7名が糸繭の製造を願い出ている史料が残されていますが、それに関連するものとも思われます。

絵馬の裏面には、寄進者として橋畑保兵衛



豊作稲荷神社の養蚕絵馬

(開墾会社員湯浅の代人)と米山長助という2名の氏名が墨書きされています。なお、描かれている建物は湯浅家の寄付により明治16年に開校した湯浅里小学校(現北部小学校の前身)から改名した明尋常小学校の校舎として、明治27年に有栖川宮所有養蚕室を買い受け、大改修して使用したものと伝わっています。養蚕は明治時代後半から大正時代にも試みられましたが、鎌ヶ谷だけでなく、東葛地域には根付かなかったようです。

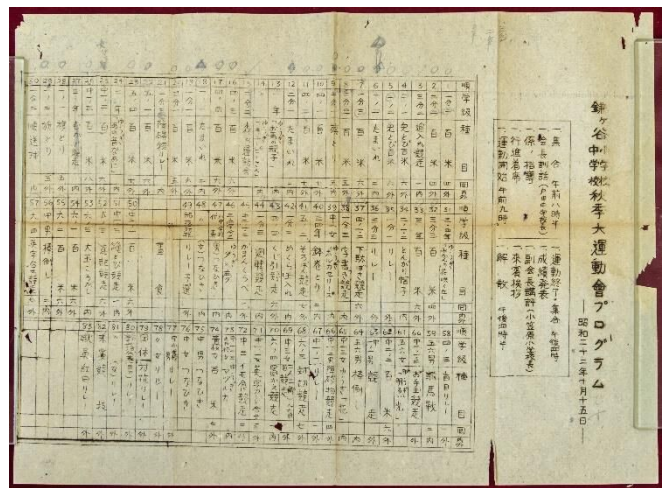
【史料整理の現場から⑩】

戦後間もない鎌小・鎌中の 「合同運動会プログラム」

郷土資料館では、調査により新たに発見、あるいは寄贈いただいた歴史資料の整理と並行して、すでに整理をしたものについても現物の所在確認や史料目録(リスト)見直しなどの作業を行っています。今回この作業の過程で、新たな史料が見つかりました。その一つが昭和22年(1947)10月15日に行われた鎌ヶ谷小学校(以下鎌小)・鎌ヶ谷中学校(以下鎌中)の合同運動会のプログラムです(写真)。折りたたまれ刊行物に挟まれていました。

この年4月1日から小学校6年、中学校3年の義務教育(六・三制)を柱とする新学校制度が始まり、市域でも4月1日に鎌ヶ谷国民学校が鎌ヶ谷小学校と改称し、5月10日には鎌中が開校しました。しかし、学校の敷地や校舎の確保・建設が未整備であったため、鎌小本校の一部(2階建校舎1棟)を間借りしました。校庭も小学校との共用となり、同26年に校庭が出来るまでの4年間は小学校と合同で運動会を開催しました。これまでも合同運動会のプログラムは別の年のものが確認されていましたが、今回発見された史料は一番古いものになります。

昭和22年4月時点で、鎌小は本校と第一・第二・第三の分校がありました。村内の4年生以上の児童が本校に通い、分校には3年生以下の児童が通っていました。4校合計の児童数は1205名。鎌中の生徒数は299名でした。約1500名の児童・生徒が一堂に会して行われた運動会は、本当に多くの子どもたちがひしめき合っていたことでしょう。鎌小の「沿革誌」には当日の様子が「小学校・中学校第一回連合大運動会を催す、三千の観衆盛会なりき」とあります。当時の鎌ヶ谷村の人口が約8200人だったことを考えると、実数はもう少し少なかったかもしれません。とはいうものの運動会の



合同運動会のプログラム

開催された10月15日は鎌ヶ谷・軽井沢の鎮守の祭礼日でもあり、運動会と併せて村中あげての楽しみの行事だったといえますから、相当の村人が集ったことが想像されます。戦後世の中がまだ不安定な時に開かれた大運動会は、日々の暮らしの中で特別な日として、人々の気持ちを高揚させるものだったに違いありません。

プログラムの内容を見てみると、まず演目数が83もあることに驚きます。平成26年(2014)の鎌小の運動会プログラムでは演目数は22となっており、小・中合同であったことを考慮しても現在の約4倍だったこととなります。午前9時に始まり昼食を挟み午後4時には終了の予定とされているので、めまぐるしい運動会だったと想像します。

次に演目内容です。「百米」は現在の100m走、徒競走になります。1クラス分の「百米」が1演目になっています。たとえば「No.10 四ノ一 百米」「No.22 五ノ一 百米」といった具合です。1学年ではなく、1クラスごとの演目が記載されているのであれば、演目数が多くなってしまってもわかります。

では中学校の演目はどうでしょうか。やはり「百米」などはクラス単位で行われていました。「ゆうぎ マズルカ」や「リレー」などの団体種目はクラス単位ではなく、学年単位・男女別などで構成されていました。

中学3年生の演目には「イモ食競走」があり

(4ページへ続く)

(3ページからの続き)

ました。「イモ」はサツマイモとみられます。他年度と比較してみると、同25年には「柿食競走」に変わり、同27年には「パン食い競走」となっています。競技で使用する食材も、自給自足物から購入物へと変化していきます。部落(地区)対抗リレーは、午前の部に予選があり、午後の部終盤に決勝が行われました。メンバーは父兄も多く混じっており、一番熱のこもった競技だったといえます。地区ごとのプライドのぶつかり合いだったのかもしれませんが。

昭和22年のプログラムは演目の多さに目が行きがちですが、学年別・演目内容で分類してみると、各分校・学年で細分化されてはいるものの、一例を挙げると個人で競う「百米」、団体で競う「棒倒し」、団体での表現「おゆうぎ(遊戯)」と現在行われている運動会と同じ3要素が適度に配分されていました。昭和から平成、令和と時代は移り、演目内容も「おゆうぎ」から「ヨサコイ節」に変化しても、運動会に通底する精神は続いているのではないのでしょうか。1枚の運動会プログラムからまだまだ多くのことが読み取れると思います。

郷土資料館セミナーを開催

テーマは『房総の民俗』

親から子、子から孫へと受け継がれてきた民俗が近年急速に失われつつあります。今年度の郷土資料館セミナーでは、5回シリーズで市域が属する千葉県下に現存、もしくは近年まで存続していた様々な民俗について県内の研究者や学芸員に紹介してもらいます。この講座をとおして「房総の民俗」についての知識や理解を深めるとともに、その保存と活用について考えてみませんか。

対象 市内在住・在勤・在学の方



中沢の谷地川地区で現在も行われているオビシヤ

日程・内容・講師

- ① 12月11日(日)「東葛・印旛大師講～房総の八十八か所巡礼～(仮題)」・郷土資料館学芸員
- ② 12月25日(日)「関東のオビシヤ～下総を中心に～(仮題)」・榎美香さん(千葉県立中央博物館大利根分館主任上席研究員)
- ③ 1月8日(日)「経済更生計画に書かれた生活改善事項～東葛地域更生指定町村を中心に～(仮題)」・和田健さん(千葉大学大学院国際学術研究員教授)
- ④ 1月13日(金)「房総の鍛冶屋～幕末からの動き～(仮題)」・芝崎浩平さん(市原市歴史博物館学芸員)
- ⑤ 1月20日(金)「千葉のおばちゃん～東京向け野菜行商の歴史～(仮題)」・小林裕美さん(千葉県立中央博物館自然誌・歴史研究部歴史学研究科長)

時間 いずれも午後2時～4時

場所 図書館3階集会室

定員 40人(応募多数の場合抽選)

申し込み 11月25日(金)までに郷土資料館 ☎445-1030へ(抽選結果は27日(日)までに連絡)

その他 新型コロナウイルス感染症の蔓延状況により中止する場合があります

鎌ヶ谷市郷土資料館だより 第61号 令和4年11月15日発行 編集・発行：鎌ヶ谷市郷土資料館

住所：〒273-0124 鎌ヶ谷市中央1-8-31 Tel：047-445-1030 Fax：047-443-4502

メール：kyodo@city.kamagaya.chiba.jp

ウェブサイト：http://www2.city.kamagaya.chiba.jp/sisetsu/kyoudo_2/index.html